



板橋区

体協ニュース

第90号

平成26年4月10日発行

「りんりんちゃん」



Itabashi Amateur Athletic Association News

公益財団法人
板橋区体育協会〒174-0051 板橋区小豆沢 3-1-1 小豆沢体育館3階 TEL:03-5915-5568 FAX:03-5915-1705
URL:http://www.itabashi-taikyo.or.jp/

平成26年度 事業計画

平成26年度の事業計画が以下の通り決定されました（一部に予定および未定があります）。

1年間の事業はほぼ例年通りですが、変更点は「清涼飲料水の自動販売機事業」が区に移管されるため廃止になりました。

組織面では従来の「事業部」を「ロードレース事業部」と「ハイキング事業部」に分割すること及び「ホームページ委員会」を新設します。

1 区民体育大会等の競技会、講習会・研修会、スポーツ教室、レクリエーション、その他体育、スポーツの普及振興に関する事業（定款第4条第1号事業関係）

(1) 第67回都民体育大会

- | | |
|---------|--------------------------|
| 選手団結団式 | 平成26年4月23日(水) |
| | 文化会館4階大会議室 |
| 開会式派遣 | 平成26年5月11日(日) |
| | 東京体育館 |
| 種目別競技実施 | 平成26年5月～6月及び
夏季・冬季 |
| 閉会式派遣 | 平成26年6月
第3又は第4日曜日(未定) |

(2) 第67回区民体育大会総合開会式

平成26年9月7日(日)
小豆沢体育館

(3) 都民生涯スポーツ大会・都民スポレクふれあい大会選手派遣

平成26年8月～11月

(4) シニアスポーツ振興事業(東京都体育協会共催)

(5) 第39回高島平・日刊スポーツロードレース大会

平成26年10月19日(日)



昨年のロードレース風景

(日本陸連公認 高島平周回コース)

(i) 20km (制限時間90分) スタート 9:50

大学男子の部、一般男子の部、一般女子の部

(ii) 10km (制限時間55分) スタート 8:47

一般男子の部、40歳代男子の部、50歳代男子の部、60歳以上男子の部、一般女子の部

(iii) 5km (制限時間35分) スタート 8:35

高校男子の部、高校女子の部、一般男子の部、一般女子の部

(6) 板橋Cityマラソン

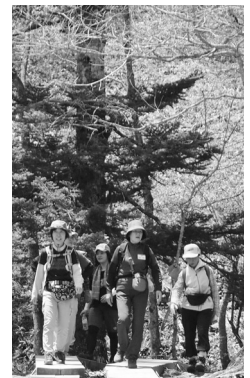
平成27年3月22日(日)
板橋区荒川河川敷特設会場

(7) 平成26年度東京都スポーツ少年団競技別交流大会

(8) スポーツ教室・レクリエーション等

- | | |
|---------------|----------------------------------|
| (i) 水泳教室 | 4施設
各1回(区委託事業) |
| (ii) ぜん息児水泳教室 | 1回(区委託事業) |
| (iii) 区民ハイキング | 年間2回 実施
第1回 平成26年5月
31日(土) |

栃木県 切込湖・刈込湖



昨年のハイキング風景
(奥日光戦場ヶ原)

第2回 平成26年10月25日(土)

長野県 北八ヶ岳

2 区民のスポーツ競技力の向上を図るための事業 (定款第4条第2号事業関係)

- ジュニア育成地域推進事業 (東京都体育協会共催事業)

3 指導者養成のための講習会及び研修会事業 (定款第4条第3号事業関係)

(1) 青少年スポーツ指導者講習会

スポーツ指導者及び指導者を目指す者を対象に、講義・講習会を実施し、指導者の資質の向上を図る。

- 第一講座 平成26年6月6日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：板橋区のスポーツをもっと高めたい指導者のための運動センス向上法
講師：池上信三
- 第二講座 平成26年9月5日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：スポーツ(バレー)アナリストとしての体験談
講師：福田 隆
- 第三講座 平成26年12月5日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：スポーツに活かす動体視力トレーニング
講師：藤川陽一

(2) 審判講習会 (4団体)

(3) 指導者養成講習会 (4団体)

加盟団体内指導者の充実を目的とする。

(4) 中級者スポーツ講習会 (7団体)

競技スポーツを愛好する中級者の資質向上を目的とする。

(5) 救急・救命講習会

平成26年7月19日(土) 13:30~16:30

文化会館大会議室

(6) 指導者交流研修会 (旧指導者研修会)

平成26年6月28日(土)、29日(日)

ソフトボール競技

福島県耶麻郡猪苗代町中ノ沢運動場



昨年の救急救命講習会風景

体育協会役員・理事、評議員、加盟団体会長・理事長及び代表委員を対象に研修会を実施し、資質の向上を図る。

4 東京都及び板橋区から受託する体育、スポーツ、レクリエーション事業(定款第4条第4号事業関係)

- 第37回板橋区少年少女サッカー選手権大会
平成26年7月

5 同一目的を有する他団体との連携協力を図るための事業 (定款第4条第5号事業関係)

- 城北五区体育協会連絡協議会

6 体育功労者及び功労団体の顕彰 (定款第4条第6号事業関係)

- (1) 板橋区体育協会体育功労者表彰
- (2) 飯田金廣賞

7 前各号の事業を推進するために行う加盟団体育成事業 (定款第4条第7号事業関係)

- 加盟団体の育成強化に資するため助成金を交付する。

8 機関紙及び刊行物の発行 (定款第4条第8号事業関係)

- (1) 板橋区体育年鑑 1,000部 (11月発行)
- (2) 体協ニュース 各1,000部 (年3回発行)

9 本条に定める事業の遂行に必要な財源調達を図るための事業 (定款第4条第9号事業関係)

- 賛助会員募集事業

本協会の継続的かつ健全な事業活動を維持するため、本会の目的・活動に賛同する方や企業を対象に賛助会員の募集を行う。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第4条第10号事業関係)

- (1) 評議員会
 - 定時評議員総会 平成26年6月23日(月)
小豆沢体育館多目的室
- (2) 理事会

- 定例理事会 毎月第三水曜日、
小豆沢体育館多目的室
- (3) 加盟団体代表委員会
 - 平成26年5月19日(月)小豆沢体育館多目的室
 - 平成27年2月23日(月)小豆沢体育館多目的室
- (4) 加盟団体会長会・理事長会
平成26年10月29日(水)グリーンホール2Fホール
- (5) 運営会議
 - 定例的に理事会の前週土曜日に開催する。
- (6) 専門部会
 - 必要に応じて総務部会、財政部会、ロードレース事業部会、ハイキング事業部会、広報部会、高日ロードレース検討委員会、ホームページ委員会を開催する。
 - 中期マスタープランに基づき、新たな専門部会・委員会を設置する。
- (7) ホームページの運営
 - 本協会の概要、事業計画、各事業の募集案内・開催状況報告及び、協会加盟団体の事業計画、連絡先を紹介し区民がいつでも気軽にスポーツに親しめる環境をつくる。
- (8) 新年賀詞交歓会
平成27年1月28日(水) 文化会館4階大会議室
- (9) 体育協会評議員会・都民体育大会報告会
平成26年7月11日(金) 文化会館4階大会議

平成26年度予算について

平成26年度予算の特徴は第2期中期マスタープランに沿った予算づくりを心がけました。

経常収益面では区民体育大会に多くの区民が参加できるよう努力し、参加分担金とメダル売上金の増収を図ります。経常費用面では第1期マスタープランで行ってきた都民体育大会の強化の目的で中級者スポーツ講習会を3団体から6団体へと倍増させましたが、26年度は第2期中期マスタープランに添ってさらに1団体増やして7団体とします。審判講習会、指導者養成講習会の参加枠はそれぞれ3団体から4団体へと1団体ずつ増やしトータル15団体が体協自主事業に参加できる枠組みとしました。また、高島平日刊スポーツロードレースにおいては地域と

の連携・交流にチャレンジする予算を、そしてジュニア育成推進事業においては連絡協議会を設置できるよう予算措置をとりました。

平成26年度の経常収益は53,674,000円で経常費用53,407,000円、税引き一般正味財産は267,000円となります。しかし平成25年度に収益事業(自動販売機)にかかる税金が316,000円徴収されるため、税引き後の一般正味財産は△49,000円となりました。

(宮坂吉胤 記)

加盟団体代表委員会開催



平成26年2月24日(月)小豆沢体育館多目的室で加盟団体代表委員会が37名出席して開催され、諮問事項は原案通り答申されました。

- 1 下田会長挨拶
 - 2 中期マスタープラン(第2期)について、高澤専務理事より、概要、意義、展望そして体協の5年後のあるべき姿への取り組みについて説明されました。
 - 3 平成26年度事業計画(案)について、引き続き高澤専務理事より説明されました。
- 青少年スポーツ指導者講習会の日時・場所および講師が決定したこと。
 - 第一講座 講師：池上信三
平成26年6月6日(金) 文化会館4階大会議室
 - 第二講座 講師：福田 隆
平成26年9月5日(金) 文化会館4階大会議室
 - 第三講座 講師：藤川陽一
平成26年12月5日(金) 文化会館4階大会議室
 - 指導者交流研修会はソフトボールを研修すること
 - 昨年に引き続き区民ハイキングを年2回実施すること(昨年の秋のハイキングは台風のため中止しました)。

- 中期マスタープランに基づき従来の事業部をロードレース事業部、ハイキング事業部に分割すること。
 - 中期マスタープランに基づきホームページ刷新のため、ホームページ委員会および新たな専門部会・委員会を設置すること。
- 4 平成26年度収支予算（案）について、宮坂吉胤常務理事より説明されました。
- 基本的には昨年の実績に基づき予算案を作成したこと。
 - 収入はサッカー連盟が区民大会でフットサルを実施することによる増額
 - 支出はマスタープランを実行するために予算案を作成したこと
 - 自動販売機の事業が区に移行するため収入減となりますが、区より補助金を受けることとなったので増減なし。

最後に加藤副会長が加盟団体のチームワークで、一丸となって体協を発展させてほしいと挨拶され、閉会となりました。 (小林恵子 記)

平成26年新年賀詞交歓会

平成26年1月29日(水)板橋文化会館で板橋区体育協会の新年賀詞交歓会が開催されました。参加者は来賓として坂本健板橋区長、茂野善之板橋区議会議長、都議会議員、区議会議員および協力団体・企業、スポーツ推進委員で、体育協会関係は加盟団体の会長・理事長等、賛助会員、評議員等総勢134名



でした。

坂本健板橋区長は祝辞で、

- 1 2020年オリンピック開催決定に対する体育協会の支援に感謝すること
 - 2 3月15日・16日に区立小豆沢体育館で「2014女子レスリングワールドカップ」を開催するので体育協会にも協力願いたい
 - 3 生涯スポーツを確立するためスポーツの振興に体育協会も協力願いたい
- 等と述べられました。

下田賢司体育協会会長は、

- 1 毎年10月に行っている高島平・日刊スポーツロードレースについて日程・コース等の見直しをするための検討委員会を設置したこと。
 - 2 板橋区が進める「東京で一番住みたくなるまち」の実現にスポーツの面で協力すること。
 - 3 スポーツ選手の育成・強化に取り組み、2020年に東京で開催するオリンピックに一人でも多くの選手が選ばれるよう頑張ること。
- 等と挨拶されました。

その後、飯田金廣顧問の乾杯で祝宴となり和やかな歓談となりました。 (石井保範 記)

青少年スポーツ指導者講習会 第三講座

平成25年12月6日(金) 文化会館4F大会議室

テーマ：「本気で励ます！」

～たましいを揺さぶり、その気にさせるペップトーク～

講師：岩崎由純氏

日本ペップトーク普及協会会長



平成25年度青少年スポーツ指導者の第三講座は、講師に、岩崎由純先生を迎え開催されました。

ペップトークとはスポーツ選手を励ますために指

導者が試合前や大事な練習の前に行う短い激励のメッセージのことで、指導者が言葉をほんの少しだけ変えることで、選手(部下)は、みるみるやる気にな

り、劇的な成果を出すようになるという講演でした。

回 全日本女子バレーボールの五輪銅メダルへの貢献

講演は、全日本女子バレーボールチームの五輪銅メダルの瞬間の写真がスクリーンに映し出されて始まりました。講師は、全日本女子チームの帯同トレーナーとして活躍された方で、トレーナーのペップトークが選手の士気を向上させ、銅メダル獲得に貢献したとのこと。バレーボールで「サーブミスするなよ!」と言われると頭の中ではミスをしている自分をついイメージしてしまいます。「サーブを決めていこう!」と言うポジティブな言葉を発すると、イメージはポジティブな結果を引き寄せるとのことです。

回 なでしこ佐々木監督の「思いっきり愉しんでこい」

サッカーなでしこジャパンの佐々木則夫監督はW杯決勝戦で、全員を集めてPK戦の前に「思いっきり愉しんでこい」というトークをしたそうです。「ミスするな」「失敗するな」の後ろ向きのトークでなく、この前向きのトークが優勝という最高の結果を出すことになったペップトークの成功例です。

回 「日本の救世主になってください!」の一言

東京消防庁ハイパーレスキュー隊の富岡隊長の奥様が、東日本大震災で爆発した福島第1原発の消火活動に向かう夫にメールで送った一言トークの「日本の救世主になってください!」も前向きな背中の一押しとして、素晴らしいペップトークと言えます。ポジティブな言葉がけを「ポジティブ語」と言い、これがペップトークとのこと。目の前の人にプラスの印象を与える接し方を「ポジティブストローク」と言い、肯定的なストロークは「好印象」を与えます。

回 ペップトークの特徴

イメージを共有させ、肯定的な言葉で、短くわかりやすく、シンプルにまとめるのが特徴です。例としてアイスホッケーの米アマチュア代表が、世界チャンピオンの元ソ連代表と戦う前のトーク「10試合戦えば、9試合ソ連が勝つだろうが、今日は勝つ1回だ。時代はお前達のものだ。奪い取って来い」をベストトークと紹介されました。

回 耳だけでなく+目と心で聴く

誰にでもわかる言葉で簡単に話すと傾聴力が増します。

状況、立場、気持で、傾聴力が増すとイメージは現実化します。イメージの世界には否定語がないと思われがちです。否定語の「ミスするな」は「ミスしろ」に、また「負けるな」は「負けろ」になってしまうのでポジティブな表現が必要です。指導される立場だったら、ネガティブなことを聞くと自信がなくなるとのことです。

回 水のような言葉

小さな子ども達の心には悪い言葉もいい言葉も、まさに砂に吸い込まれる水のように沁み込みます。その水が、子供の心の幹を育てます。「ムリムリ」が口ぐせで、やろうとしない子供も、「やってみようと言ってごらん」「きっと出来るようになるからね」と言葉をかけると出来るようになるのとのこと。

回 ポジティブの原点の土田和歌子さんの紹介

高校2年時、友人とドライブ中に事故に遭い、車いす生活に。そしてアイススレッジの講習会に参加したことがきっかけで、日本で最初にアイススレッジスピードレースを始めました。長野冬季パラリンピックでは、自己の世界記録を更新し金メダルを獲得。しかし、その後アイススレッジの種目が無くなったので陸上競技に転向し、アテネ夏季パラリンピックでは5000mで金メダルを獲得しました。この土田和歌子さんがレース中に考えることは「失った物を考えるな!ある物でベストを尽くせ!」だということ。



回 キーワードは、自分への宣言

自分に対して語りかける肯定的な宣言の言葉のことを「セルフペップトーク」と言い、意識的に良い言葉を選んで言い続けることで、意識や心のあり方を変えることができます。口癖の「私って〇〇なの！」などの悲観的な言葉を言い続けるのではなく、楽観的なポジティブな言葉に変えることにより、プラス思考が生まれるでしょう。

回 三三七拍子のセルフペップトークの例

できる、できる、必ずできる！なれる、なれる、必ずなれる！前へ、進め、必ずトライ！克てる、勝てる、必ず勝てる！良くなる、能くなる、善くなる！…など前向きな言葉を使いましょうとのこと。いける、いける、必ずいける！とれる、とれる、必ずとれる！きまる、きまる、必ずきまる！かてる、かてる、必ずかてる！…これらの応援を、サポーター、控えの子父兄等皆が一緒になってすることにより、県の代表になって中央大会に出場したチームがあったそうです。

回 金色のラインのマラソンシューズのエピソード

瀬古選手に金メダルの期待がかかったロスオリン

ピックの時、先生はナイキのブースでトレーナーをしていて、何語を話しているのかもわからないある選手が、毎日来るのに対応していました。その最終日二日前にその日は通訳を連れてやってきて、やっと話が出来ました。血豆が出来たので、靴が合っていない、早速サイズの合う靴を探しましたが、それはナイキジャパンのものなので、ロスにはなかったそうです。これでは、二日後のレースに間に合わないということで、日本に連絡し、靴を持って成田に向かわせ、誰かロスに行く人に託して届けることになり、一人のスチュワーデスさんが内緒で運んでくれて何とか間に合ったとのこと。それで、その名前も国もわからなかった選手は、優勝したポルトガル人カルロスロペス選手だったとのエピソードを、先生が最後に話され、会場の空気を盛り上げて講演を終えました。その後、質問コーナーでも、先生の回答はペップトークが続き講演を終えました。

回 講演終了後は、全員で集合写真を！

先生は、集合写真が大好きとのことで、壇上に参加者が集合して記念写真を撮り、講演を終えました。時間の経つのが短く感じられた印象的な講演でした。

連盟協会だより

バドミントン協会

支部対抗バドミントン大会準優勝

正月明けの1月13日(月祝)葛飾区総合スポーツセンターにおいて、東京都支部対抗戦が行われました。女子ダブルス、男子ダブルス、混合ダブルスによる団体戦で、板橋区代表は1部に出場し準優勝という成績を収めました。

1回戦から強豪チームとの対戦が続き、女子ダブルスは決勝戦以外では、全てファイナルという接戦をものにして勝ち上がりました。準決勝の墨田区との対戦では1-1で回ってきた混合ダブルスが、ファイナル25-23で奇跡の勝利でした。決勝戦も1-1となり、健闘しましたが残念ながら調布市に敗れ、

準優勝となりました。ちなみにバドミントンはラリーポイントにより1セット21点先取で行われます。

戦績

1回戦	対	渋谷区	3-0
2回戦	対	練馬区	2-0
準決勝	対	墨田区	2-1
決勝	対	調布市	1-2

選手

赤嶺隼人 小林和弘 武田智博
柴田展子 関亜由美 上田彰子

上田彰子選手、世界シニア大会ダブルスで優勝！

第6回世界シニアバドミントン選手権大会

女子ダブルス優勝

第30回全日本シニアバドミントン選手権大会 準優勝

第6回世界シニアバドミントン選手権大会（2年に一度行われる大会）が2013年9月9日～9月14日トルコのアンカラ市で開催され、上田彰子選手が茨城県の羽生美恵選手とペアで出場し、見事優勝しました。

準決勝までは各試合を2-0で快勝し、決勝戦では180cmくらいある長身イギリスペアと対戦し、ファイナルは21-19の接戦をものにして優勝。

上田選手は第5回世界シニア選手権のカナダ大会においても女子シングルスで優勝、女子ダブルス3位と活躍しています。

第30回全日本シニアバドミントン選手権大会が2013年11月16日～11月18日に愛媛県で開催され、上田彰子選手は永春玲子選手とのペアで、40歳以上女子ダブルスのランクで準優勝しました。

（小林恵子 記）



支部対抗に出場の選手 中央で賞状を持っているのが上田彰子選手

柔道連盟

都民体育大会

12月8日(日)に第58回東京都24地区対抗柔道大会が講道館において開催されました。この大会は東京23区と多摩地区を合わせた24地区からなり、さらに1部8チーム、2部16チームで構成されています。そして上位8チームが1部としてA、Bの2ブロックに分かれてリーグ戦を行い各ブロックの最下位チームが翌年は2部に降格となります。

一方、2部は16チームでのトーナメント戦を行い上位2チームが入れ替えて翌年には1部昇格となります。

板橋区はここ数年代表選手や監督の頑張りにより1部でしたが、昨年は残念ながら1部で4位となり2部に降格しました。今回の2部一回戦は杉並区と

対戦し5対0と圧勝、続く2回戦は港区と対戦し4対1と順調に勝ち上がり準決勝を迎えました。相手はこれも1部の常連である墨田区との対戦となりました。結果は残念ながら2対3と惜敗し2部三位となり今年の1部昇格は来年以降に持越しとなりました。

指導者講習会

昨年より中学校、高校等において柔道が格闘技授業の一環として行われることになりました。それに伴い全日本柔道連盟より有資格者に対して講習会の参加が義務づけられることとなり今回講習会受講修了者に対して資格認定証が交付されました。なお、有効期限は平成29年3月末となっています。

（中山俊昭 記）

少林寺拳法連盟

力愛不二の生き方……どのように生きるのか

人は社会をなし、生きるために必要な物と環境を得るために、仕事を分担し、協力して働きながら生きています。その立場に応じて社会的役割と責任があり、その人と関わる人々へ何らかの影響を与えます。そして、その立場に立つ人の考え、人柄、行動によって周囲、ひいては社会に異なる結果を生み出します。社会が生み出す幸不幸は、その立場に立つ人間の質によって生じます。

人は他人との関係の中で、お互いに依存しながら生きています。「わたし」という人は他者との関係の中でしか存在しえません。限られた人生をいかに生きるかを考えるとき、他者のせいにはせず、正しく判断し行動する力を持ち、自分の人生を引き受けることに加え、他者を思いやり行動することが生きることに意味を与えます。

自己確立から自他共栄へと高めていくことが修行の目的です。慈悲と不正を許さぬ思いを実現させるためには、力(理知)の裏付けが必要であり、また、力はそれぞれの人が尊重され平和で豊かな人らしい生き方のできる社会の実現のために行使されなければなりません。このことを、少林寺拳法においては「力愛不二」といい行動の規範としています。（菅原勉 記）

サッカー連盟**板橋区出身の“Jリーガー”！**

まもなく2014年FIFAワールドカップブラジル大会が始まろうとしています。6月には素晴らしい大会が開催されることでしょう。わが、サムライブルーもベストを尽くして闘うことでしょう。以前にも増してサッカー熱が増す時期でもありますので、ここで板橋区出身のJリーガーを紹介しておきましょう。

J1 柏レイソルに所属する田中順也選手、名古屋グランパスエイトに所属する田中輝希選手、田鍋陵太選手、徳島ヴォルティスの藤原広太朗選手、J2 ロアッソ熊本の橋本拳人選手、JEFユナイテッド千葉の藤本修司選手らがその人たちです。

さらにベテランの域に達した小針清充選手や戸川健太選手（ともにガイナレ鳥取）もいます。

田中順也選手、藤原選手、戸張選手、戸川選手は高島平サッカークラブ、田中輝希選手は志村東ジュニア、田鍋陵太選手はゴールデンキッカーズ、橋本拳人選手はアミーゴフットボールクラブ、藤本修司選手は中台サッカークラブの出身です。小学校時代は、それぞれのチームでボールを蹴り、高島平少年サッカー場や荒川戸田橋緑地サッカー場で開催される板橋区少年サッカー大会にも出場し多くの試合をこなし、板橋区からプロサッカー選手への道を切り開いて行きました。

田中順也選手は、サムライブルーにも呼ばれ、田中輝希選手、田鍋選手、橋本選手はユース代表として日本代表となっています。小針選手もオリンピック予選などの年代別日本代表、戸川選手はユニバーシアード代表、藤原選手、藤本選手は立命館大学や専修大学で大学選抜選手にも選出されました。

彼らは、小学校時代は東京都第6ブロック（板橋、北、文京、豊島、中野）の代表選手として、東京都ブロック選抜大会にも出場しています。

選手たちの活躍から、目を離さないください。

皆さん 熱いご声援をお願いします。（高田清 記）

区民大会 中学生の部

板橋区民大会 サッカー競技（中学生の部）が研修大会とともに開催されました。1月12日、13日、18日、19日、26日の5日間の日程で、高島第一中学



表彰式

校、高島第二中学校、高島第三中学校を会場にして行われました。区民大会（試合時間50分）に28チーム、研修大会（1年生・試合時間40分）に16チームが参加しました。全試合とも白熱して、一瞬とも目が離せない好試合でした。結果は区民大会は加賀中学校、研修大会は高島第三中学校が優勝しました。連盟として、準々決勝から審判員を派遣して協力しました。今後も区民大会を通して連盟と中学校との連携を強めて行きたいと考えております。（福手敏夫 記）

ソフトテニス連盟**富田真愛選手東京国体で優勝！**

富田真愛選手 第68回国民体育大会ソフトテニス競技会



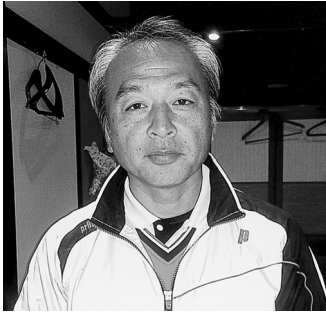
平成25年10月4日・5日に行われた第68回国民体育大会スポーツ祭東京2013の「ソフトテニス少年女子の部」に板橋区の富田真愛さんが出場し、東京都代表チームとして優勝しました。

さらに、平成25年3月29日・30日に行われた第38回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会では団体で優勝、7月29日～31日に行われた平成25年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会では個人（ダブルス）で3位、団体で準優勝に輝きました。

小嶋英二選手2位、堀越晴夫選手3位に輝く！

平成25年度全日本シニアソフトテニス選手権大会

が9月20日～22日に兵庫県三木市で開催され男子50歳以上の部に出場した小嶋英二選手（アステラス製薬）が個人（ダブルス）で2位、男子45歳以上の部に出場した堀越晴夫選手（板橋倶楽部）が個人（ダブルス）で3位になりました。なお、堀越選手は24年度の大会で優勝しています。



小嶋英二選手



堀越晴夫選手

ジュニアソフトテニス教室

毎月第二土曜日に東板橋庭球場でジュニアソフトテニス教室を開催しています。今年度は小学1年生～6年生で定員を超える申し込みがあり、毎回熱心にボールを追いかけています。これまでは中学校の部活動から経験することがほとんどでしたが、今後は小学生からソフトテニスに親しむ輪が広がってほしいと願っています。

ソフトテニスは老若男女問わず、それぞれに応じた楽しみ方ができるスポーツです。板橋区では、競技者の目標となるトップ選手が活躍しているとともに、初めてラケットやボールにふれ親しむ土壌が育まれつつあります。ソフトテニスを通じて、スポーツに親しみ、健康で生きがいのある生活のために、微力ながら今後も事業の充実を図っていきます。

（関口哲也 記）

合気道連盟

平成25年度の活動報告

- 5月12日 第66回都民体育大会に2名参加しました。
- 5月12日 連盟総会。会員が多数参加し、年度予定等多くの議題が論議されました。
- 5月25日 第51回全日本合気道演武大会が日本武道館で開催され、当連盟から50余名が参加し、活気ある演武を披露しました。
- 6月30日 少年部保護者会が開かれ、保護者同士

および指導員が意志の疎通を図り、子供たちへの指導方法について話し合いました。

- 9月8日 第66回区民体育大会開会式に10余名が参加し、長倉正道副理事長が板橋区スポーツ功労者として表彰されました。
- 10月6日 恒例の演武大会が小豆沢体育館で開催され、大勢の会員と招待者が日頃の成果を披露しました。

平成26年

- 1月12日 新春合同稽古および鏡開きが開催されました。

最後に連盟の理事兼指導員として、月に一度のペースで理事会を開き、今後の連盟の発展および会員の円満な人格形成のために尽力する覚悟でありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（田嶋智弘 記）



演武大会 子供部および同指導者

バレーボール連盟

板橋区バレーボール連盟小学部35周年記念行事

平成25年12月22日（日）に板橋区バレーボール連盟小学部創立35周年記念行事を行いました。

当日は、記念試合を9時～16時までの間、小豆沢体育館で14チームが参加し4グループに分かれそれぞれ熱戦を繰り広げました。グループは本年の大会結果によりランク別に分けた構成でしたのでチームの力が伯仲し、思い出に残る大会となりました。また、試合に先立ち板橋区体育協会下田会長による始球式も行い試合に華を持たせていただきました。

試合終了後は、小豆沢にある旅亭「みかど」で祝賀会を開きました。

祝賀会には、板橋区坂本区長を始め板橋区体育協会下田会長、板橋区スポーツ振興課織原課長、モル

テン 浜岡氏、シマダ記章 島田氏、板橋区バレーボール連盟田中名誉会長、坂本会長、小島副会長、木村、石井両参与、川上理事長、齊藤副理事長、宮川総務委員長とたくさんの御来賓を迎え楽しいひと時を過ごしました。

この祝賀会において、坂本区長から板橋区バレーボール連盟小学部に対し、長年の活動を称える感謝状を頂きました。感謝状の重みを感じこれからも小学部の発展と充実を図り連盟の名に恥じないよう活動することをあらためて役員一同決意しました。皆様方の叱咤激励をお願いいたします。(大久保正明 記)



下田会長による始球式



板橋区長、坂本連盟会長の間に大久保小学部長

卓球連盟

2人の全国大会チャンピオン誕生！

板橋区の卓球選手は女子団体チームが都民大会で5連覇するなど、実力者がそろっていますが、昨年は全国大会で2人のチャンピオンが誕生しました。

一人は島田美鈴さんです。板橋区女子団体チームのエースとして活躍していますが、第65回東京卓球選手権大会シックスティ女子で見事に優勝されました。この大会は東京と名前がついていますが、外国人も含め全国の強豪が集まる大会です。試合が終わるたびにきちんとアイシングをして体調管理をしっかり行い、長年にわたりトップクラスで活躍しています。

もう一人は軽部隆介さんです。第47回全日本社会人卓球選手権大会男子シングルスで優勝を飾りました。軽部さんは中学1年生の時、全国中学校卓球大会で優勝し、その後も全日本卓球選手権ダブルスで準優勝するなど日本を代表する選手の一人として活躍をつづけていますが、またビックタイトルを獲得しました。現在、ナショナルチームの一員として2016



島田美鈴選手



軽部隆介選手

年のリオデジャネイロ・オリンピック出場を目指しています。どうぞ応援をよろしくをお願いいたします。

(鍵屋一 記)

テニス協会 近況報告

テニス協会では、年に3コース（1コース：4日間）、加賀庭球場で、区内在住・在勤・在学者を対象に「テニス教室」を開催し、初めてラケットを握る方から経験者まで様々な方が参加しています。

また、最近の傾向として、「ジュニア」といわれる小学生や親子での参加者も多く、このテニス教室を通じて親子の会話やふれあう時間が増え、子供達のより良い成長に役立てればと思っています。

都民体育大会では、男女共に力の限り戦いましたが、勝負の世界は厳しく、勝ち進むことはできませんでした。しかし、確実に各選手のレベルは向上しており、次回に大きな期待を持っています。

夏休み中、東京都・ジュニア育成地域推進事業の一環として「中学生大会」を開催しました。猛暑の中、日々の活動で鍛えあげた実力を発揮し、実りの多い有意義な大会となりました。また、今大会への



テニス教室風景

参加はかありませんでしたが、区内には「ジュニア強化指定選手」がおり、2020年東京都開催のオリンピックに出場できるのではないかと期待しています。

今後も、区民の体力向上や地域住民との交流、青少年の健全な育成の一助となれるような様々な活動を行えるよう考えています。(浅賀公子 記)

アーチェリー協会 全日フィールドアーチェリー優勝選手

このほど板橋区文化・国際交流財団から表彰（第42回全日本フィールドアーチェリー選手権大会のCP部門で優勝）された、種部浩司選手は弓歴30年のベテラン。また受賞歴からもお分かりのとおり、全日本選手権大会の上位常連選手。

種部さんが優勝したCP（コンパウンド）部門の弓は、上下に滑車がついていて、フルドロー時にはポンド（弓の強さ）がダウンするシステムの弓で、近年普及の著しい弓です。あいにくオリンピックの種目にはありませんが、今年のアジア大会にはアーチェリーの正式種目になりました。

板橋区チェリー協会では、いち早くこのコンパウンドボウに着目してきたこともあって愛好者も多く、またメンテナンスやチューニングのための治具も揃えています。

種部選手を始め、CPアーチャーには佐藤正八選手（第45回全日本社会人ターゲットアーチェリー選手権大会優勝）、秋山なるみ選手（第22回全日本室内アーチェリー選手権大会2位）が会員で、これからの活躍も大いに期待できます。

種部さんの経歴と受賞歴は以下の通りです。

生年月日：昭和40年7月11日

出身地：鳥取県倉吉市

弓歴：30年

主な受賞歴

2005年 第39回全日本社会人ターゲット選手権大会優勝

2006年 第40回全日本社会人ターゲット選手権大会優勝
第48回全日本ターゲット選手権優勝

2007年 第44回世界ターゲット選手権日本代表

2008年 第29回全日本社会人フィールド選手権大会優勝

2011年 第20回全日本室内選手権大会優勝

2013年 第42回全日本フィールド選手権大会優勝

(藤野一郎 記)

区民のために「何をなすべきか」 —第2期・中期マスタープラン—

「新公益財団法人への移行を契機として、体協と加盟団体の協力関係の更なる進歩を目指す。」平成23年度、このような理事会の総意を背景に体協の第1期「中期マスタープラン」が作成されました。

第1期作成から2年余、一部事業の進捗、また環境の変化に整合させるため、今回、第2期中期マスタープランを作成する運びになりました。

内容としては、マスタープランの目的である意義（I章）と中期ビジョン（II章）は第1期とほぼ同様です。

マスタープランは、我々体協が、区民のために「何をなすべきか」を明確にし、板橋区および加盟団体と一体となって事業を進めるための指針としています。

この上で、ビジョンとして4本の柱を掲げました。要点を紹介します。

1. スポーツ文化を育てる

体協独自の「スポーツ文化」を承継し、区民の「生きがいづくり」に貢献するため、専門組織化を進めます。

2. 加盟団体とのチームワーク

多数の区民の参加によって構成されている加盟団体とのチームワークを高め、スポーツの輪を広げます。

3. ジュニアスポーツの育成

アスリートと将来のスポーツ板橋を支える人材の育成を重要課題と捉え、持続可能な育成システムの構築に取り組めます。

4. 生涯スポーツの振興

「新たなスポーツ文化」を育てるという発想のもと、多様な年代層が参加できる場所づくり（スポーツ愛好者の拡大）に取り組めます。

事業の方向性（III章）について、基本的な枠組みは第1期と同様ですが、具体的にはロードレースとハイキングについて専門組織（事業部）を設置することとしました。

また、広報活動についてはホームページ委員会を設置することとしました。

その他、ロードレースの再検討、スポーツ講習会・

ハイキングの拡充などを進めることとしました。

冒頭に述べたとおり、マスタープランの出発点は、体協と加盟団体の協力関係にあります。

「スポーツは文化・生きがい・である」という想いを皆さんと共有しながら力を合わせて前進していきたいと願っております。(高澤誠 記)

スポーツ愛好者を事故から守る 体協危機管理マニュアル

今年度、上部団体である東京都体育協会は、主催大会等における事故の防止対策および万一事故が発生した場合を想定して、事前対策・応急対策、事後対策を定めました。

これを受け、板橋体協としても都体協に歩調を合わせ、昨年12月から「主催大会運営に係る危機管理マニュアル」を適用することとしました。

これまで事故の多くは競技中に発生する傷害事故を想定していました。しかし近年は、多発する熱中症、あるいは落雷・強風、加えて食中毒など、原因が多様化しています。

幸い板橋体協関係では大会責任者各位のご尽力により大きな事故に至ったケースはありませんが、日頃から事故発生を想定して感性を磨いておくことが大切です。

改めて各加盟団体におかれましては「スポーツ愛好者を事故から守る」という重要な使命遂行に資するため、配布の危機管理マニュアルに沿って最善を尽くしていただければ幸いです。

なお、当マニュアルは区民体育大会などの体協主催大会等に適用しますが、重要性に鑑み、各加盟団体が主催する自主事業についても当マニュアルを準用していただくようご理解・ご協力をお願いいたし

ます。

(高澤誠 記)

*「危機管理マニュアル」の内容については板橋区体育協会事務局にお問い合わせください。

体協行事のお知らせ

◎ 区民ハイキング

平成26年5月31日(土)に第1回目のハイキングを実施します。場所は新緑かおる奥日光の「切込湖・刈込湖」です。多数の参加をお待ちしています。

*募集要項等は板橋区体育協会事務局にお問い合わせください。

◎ 青少年スポーツ指導者講習会第一講座

平成26年度青少年スポーツ指導者講習会第一講座を来る6月6日(金)午後6時30分から文化会館4階大会議室で開催します。テーマは「板橋区のスポーツをもっと高めたい指導者のための－運動センス向上法－」で実技を中心とした体験型です。講師は池上信三先生(レベルアップスポーツ(株)代表取締役)です。先生はプライマリーモーション指導協会会長でスポーツ動作分析研究者でもあります。どなたでも参加できますので、多数の皆様方の参加をお待ちしています。

*詳細につきましては板橋区体育協会事務局にお問い合わせください。

新規加盟団体のお知らせ

「板橋区ゴルフ協会」が体育協会に加盟することが平成26年2月の理事会で承認されました。

会長 加藤勝一

理事長 緒方慎一

会員数 100名

編集後記

体協ニュース第90号をお届けします。

毎回、発行にあたり、各連盟・協会よりご寄稿頂き有難うございます。今後もご寄稿にご協力よろしくお願い致します。

さてこのニュースをご覧になる頃は春到来！各連盟・協会の方々は新年度を迎え、新たなスタート

をされたことと思います。当協会も公益財団法人に移行して3年目をむかえます。毎月の理事会などで中期マスタープランを検討し、皆様方と一体となって事業を推進できるよう考えております。

引き続き関係各位の一層のご支援ご協力をお願い致します。(小堀幸子 記)